



昭和55年に高校3年生の選択

科目「国語表現」を開講以来、新聞の活用を積極的に取り入れている。指導の基本は新聞を

「読んでスクラップすること」であり、議論の方向性を絞って「書く能力を高める」ために、時代背景を反映するテーマを扱ってきた。一方、生き抜く力を育てるねらいで「チームワークの指導力」を培い、教科の枠を超えた学校全体の取り組みへと段階的に発展させてきた。平成22年度、教務部に「NIEプロジェクト」を発足させて「NIEタイム」を設けた。23年度

### 事務局長から一言

稲津恵子先生はもう30年以上新聞活用を実践しておられるベテランの先生である。先生が授業で新聞を使おうと決めたの

から2年間はNIE実践校の指定を受け、積極的に新聞を活用する意識が高まった。読書・国数英3科の基礎学習を作る「朝の帯学習」でもNIEタイムを取り入れたことで、学習内容の

充実・発展につながった。25年度から運営を図書委員会に移し、図書委員が「私のお勧め記事」を紹介してNIEコーナーの充実を図るなど、活字文化に親しむ活動を推進している。

## 駒沢学園女子中学・高等学校

教諭 稲津 恵子

◎東京都稲城市／校長・橋本衆宝／生徒数・中学・高等学校 計476人  
◎特色…「好きなプロジェクト」Ⅱ平成27年度より、「共生」と「創造」をキーワードに、人生における大切な考え方や作法を学ぶ「自己をならう」プログラム、問題を発見する力・アイデアをつくる力・伝える力を養いコミュニケーション力を身につける創造プログラム、自分の将来と向き合い、自ら考えて行動するためのキャリアプログラムを実践していく。



は「生徒たちに学力をつけさせ、社会で生き抜く力を身につけさせるにはどうすれば良いか」を考え抜いた結果だと聞いている。一昨年、駒沢学園で鷗外の「舞姫」を学んだ仕上げとして

行われた「舞姫裁判劇」を拝見した。高3の生徒たちが、生き生きかつ真剣に演じる姿を見て、先生がめざす「新聞が好きな」子どもと生意気な女の子を育てる」が、しっかり実りつつある

結果として中学生が「水道週間作文コンクール」や「人権作文コンクール」で、複数の東京都優秀賞を受賞したり、高校生が第2、第3回の「いっしょに読もう！新聞コンクール」東京都優秀賞を受賞した。25年度は、中学生が第4回の同コンクール全国奨励賞と東京都優秀賞、「月からの手紙コンテスト」グランプリなど成果が顕著であった。活字文化は、「ひとつのこと」を共有すれば話題にまつわる経験交換の土壌ができ、相互理解への道を歩む。そして新聞は、現代の問題意識を最もスピーディーに刺激し合える教材である。それを生徒が実感できる環境を整え、家庭へ発信していく力を提供できる学校教育の構築を課題に、チームワークを高めたい。

ことを実感した。先生の努力は報われ、最近では学園全体でのNIEが力強く展開されている。駒沢学園NIEの更なる発展を期待したい。(東京都NIE推進協議会事務局長・高橋通泰)